

## 令和2年度 第1回 銚田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員による地方創生推進交付金事業の評価結果【委員19名全員評価】

事業名		ほこたブランド推進事業			
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>■農家の所得向上を図るため、付加価値向上、産地の知名度アップ、高級店、有名シェフと連携した事業展開、本市のフラッグシップ的農産物であるメロンについての全国産地との連携によるPR、「メロンの日」を活用した事業展開、消費拡大に向けた指定市場での販売強化を推進する。</li> <li>■農業のイメージアップを図るため、PR動画への若手の起用、登山人気ウエアー企業の協力を得て「カッコいい」農業の実現に向けた取り組みを展開する。</li> <li>■銚田ファン獲得に向けた事業を展開し、銚田市産農産物の愛好家、Uターンによる就農者の確保を図る。</li> <li>■観光農園、直売所、市内飲食店組合等と連携を図り、交流人口の増加や農業から他産業への所得の波及効果を狙う。</li> </ul>			
事業の評価		実績値を踏まえた事業の今後について			
評価	評価に対する意見・理由	今後の方針	今後の方針を選んだ理由		
①取組事業がKPI達成に有効であった	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銚田のブランドがメディア等のPRによりイメージアップが図れると、他の産業にもよいイメージが出来てよかった。</li> <li>・多種多様な媒体を利用したPR活動は素晴らしい。これからの時代の戦略の中心となるであろう。</li> <li>・銚田のメロンの食べ方の新提案の企画は、見てみたいという興味関心を抱く。しかも、銚田の知名度アップにもつながるよい企画である。</li> <li>・ほこたメロンフェアは、ぜひ拡大して欲しい企画である。</li> <li>・「メロンの日」イベントは継続実施してほしい。学校においても定着させていきたい。</li> <li>・実績値で結果がおおむね良かったと考える。</li> <li>・県外の人から「ほこた」と言って伝わるが増え、認知拡大を実際に感じる。</li> <li>・メロンを起爆剤としてマスコミに取り上げてもらう機会が増えた事は評価できる。</li> <li>・せっかく銀座三越まで行くのだから日本一の野菜産地を大々的にアピールした方がよいと思います。</li> <li>・有効であったには違いないと思われる。</li> <li>・多種多様な媒体を活用したPRにおいては、新聞、ラジオ、テレビ等を効率的に活用し、全国に対して有効的なPRが図れていた。</li> <li>・茨城県銚田市と言えば「メロン」というイメージが更に浸透したという感触を持っている。</li> <li>・4つのKPIに対する達成度は入込客数を除き概ね達成しており、本事業の目的としている農家の所得向上や就農者の確保が図られている。</li> <li>・入込客数の増加のためには、いかに交流人口の増加を図り、まずは銚田市に来てもらうことを考えていくことが必要であると思います。</li> <li>・ほこたブランドを誇りをもってPR、フェアを開催し、情報を発信することによって、市のイメージと知名度向上、さらに地域競争力の強化につながった。</li> <li>・実績値で結果がおおむね良かったと考える。</li> <li>・県外の人から「ほこた」と言って伝わるが増え、認知拡大を実際に感じる。</li> <li>・半カットメロン、とても贅沢な食べ方のアピールですね。東京や神奈川の飲食店で企画も良かったです。メニューが豊富で食欲をそそられます。</li> <li>・銚田のメロンフェア・いちごフェア・無料試食会等各種PRイベントへの出店が効果をあげ、銚田のメロンやいちごは知られてきていると思うので引き続きPR活動は行っていくべきだと思う。</li> <li>・市長自らのトップセールスや銚田市出身のタレントを起用したことにより、成果が良く表れていると思う。</li> <li>・最近、メディアからの取り上げが多くなり、銚田市のイメージアップが図られたと思う。</li> <li>・TOKYO、YOKOHAMAでのPR、販売、また「カミナリ」のご協力により話題性、情報発信が強化され、一層のブランド化と消費拡大が期待できる。</li> <li>・半カットメロンの訴求イラストやWEB動画、ポスターなどは、地元出身のお笑いタレント「カミナリ」を起用するなど地元愛が溢れている。動画に岸田市長が登場するところから、市が一丸となって取り組んでいるという思いが伝わってくる。</li> <li>・首都圏でのイベントが中心のようだが、県内でのイベント開催も大切だと思う。県内にはまだまだほこたの農産物のことを知らない人がたくさんいる。特に、TX沿線は移住者も多いので沿線でイベントを開くのも効果があると思う。</li> <li>・首都圏での無料試食会やフェアなどの活動は地道だが、大切なこと。</li> <li>・メディアで銚田のメロンを目にする機会がとて増えたと思うので有効であると思います。</li> <li>・都会でのPRは良い。有名なお店で、メロンやいちごのメニューがきれいで、とてもカッコいいです。もともとおいしいので、食べればかなり良い評価があるでしょう。カットメロンでは、氷、アイス、プリンは良いと思うが、納豆はどうかなと思います。</li> </ul>	①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させるべきである(事業拡大)	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中でもっとネット販売などを進めてほしい。</li> <li>・メロン以外の農作物のいちご、葉物野菜、さつまいも等でもPR活動を推進し、「銚田ブランド」農業市銚田を広めていきたい。</li> <li>・カミナリ、磯山さやかへの貢献は大きい。さらなる活躍を期待します。</li> <li>・茨城空港、高速道路の活用を推進して、観光客の呼び込みを図りたい。(ツアー企画の拡大)</li> <li>・農業県である茨城県とのコラボレーション。</li> <li>・就農者の確保、後継者づくり、若者の出会いの場を拡大して、農業の魅力を深めたい。</li> <li>・野菜産出額日本一の称号をもっと全面的に打ち出して有効に活用すべきです。メロンを始め、さつまいも、小松菜、水菜、ごぼうは日本一なのは意外と知られていない。</li> <li>・特に大事な点は新規農業者数の増大であろう。現在が良くても先々を考えればこの点は重要である。これからは「農業の街、トップリーダー」を維持していく上で事業拡大は必須だと思う。</li> <li>・コロナにより対面や試食販売は中止されたが、イチゴ、メロンは一定のニーズがあり、イベントがなくても消費にはそれほど影響はない事が立証された気がする。安易な無料提供や試食は必要性を感じない。</li> <li>・メディアを活用したPRでは一定の効果も上がっており、継続した取組は必要。</li> <li>・市内には農産物だけでなく、豚肉(畜産農家)等の立派な資源もありますので、常陸牛のようなブランディング確立も行っていくと良いと思います。</li> <li>・「カッコいい」や「オシャレ」などの路線は継続してほしい。それが若者の誇りにつながると考える。</li> <li>・銚田ブランド(メロンやいちご)の知名度アップはできていると思うので継続する。イベントやフェアなどの出店でさらにアピールして行ってほしい。</li> <li>・テレビ等でのPR効果は大きいと思う。「アド街銚田」で紹介された所への人出は多くなったと思う。</li> <li>・日本で一番野菜をつくるまちとして、メロン以外の農産物・畜産物等をPRしていく必要があるのでは。</li> <li>・国内における首都圏以外の大都市圏へのPR強化による「メロン生産日本一、人気も日本一」を目指す取組を推進して頂きたい。</li> <li>・メディアや各種イベントでのPR等銚田のメロンのPRは良く出来ていると思いますが、ブランド力の面ではなかなか難しく、夕張・静岡の方が知名度はあると思うので、引き続きPRを続けて行って欲しいです。</li> <li>・ブランドを上げるには高級感も必要なのでプレミアムメロンをPRしていく事が良いと思います。(観光客は高級メロンを購入していくと思うので)</li> <li>・やはり、攻めの姿勢で、どんどんアピールして実行すべきです。</li> <li>・銚田はすごいおいしいもののレベルが高いので伸ばしていくべきです。</li> </ul>
②取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近ではTV放送などで銚田も多くとりあげられて、他県からの来訪者も増えているように思いますが、やはりメロン押しである。他のブランディングも考えていく事も必要だし、コロナをどう対処して行くかが今後のポイントだと思います。</li> <li>・PRによって、銚田ブランドの農産品を購入してもらったり、銚田に来てほしい所であるが、近所に銚田ブランドの農産品を売っている訳ではないし、ネットで簡単に購入出来る訳でもない。(メロンは別)</li> <li>・銚田はこれと言って観光もない為、来客者が増える要素も少ない。加工品を検討してはどうか。</li> <li>・離農者が増えていることにも着目すべきと考える。</li> <li>・全く有効でなかったとは言えないが、事業の内容が消費動向にどう影響しているのかが見えてこない。</li> <li>・回収率が期待できるか疑問はあるが、JAなどの協力を得てメロンやいちごを箱買いする消費者に購買理由等のアンケートをとってはどうか。</li> <li>・資料にあったメロンやいちごのPRイベントの結果内容について、開催店舗や担当バイヤー側の「印象」感が拭えない。例えば、来場者へのアンケートなど客観性があればと思う。</li> <li>・市内直売所入込客数が基準値に比べ減少しているのが気になる。理由はなにか？</li> <li>・事業内容を否定するものではないので、今後も継続しても良いとは思う。成果が具体的に見えるとよい。</li> <li>・メディアの活用は良いと思う。更に上手な活用を望む。</li> <li>・カミナリを起用したPR動画も第2弾となり、銚田の知名度も更に上がっていると感じます。また同時に農業に対する若者のイメージも向上しているように思えます。</li> </ul>	②特に見直しの必要がなく今後も事業を継続すべきである(事業継続)	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年通り、事業の継続を願う。</li> <li>・今後もメディアを活用したPR戦略を行って頂きたい。</li> </ul>
		③事業内容の見直し(改善)を行うべきである	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メロン以外の作物や観光業にも力を入れる。</li> <li>・季節に関係なく販売可能な加工品の研究をすべきではないか。</li> <li>・「新規就農者数-離農者数」をKPIにすべきではないか。</li> <li>・事業規模(予算、取組内容)はこのままで、一部改善を図る。各取組内容が消費動向やイメージアップにどう影響(貢献)したかが具体的に分かると事業に対する理解が深まると思う。</li> <li>・今後は「withコロナ」という考え方に基づいて事業を推進していくことが必要となる。ネットや通販など今までは違ったところに力を注いでいかなければ、ほこたブランドのイメージアップや消費拡大は難しいのではないかと。</li> <li>・首都圏でのイベントが見逃せない分、県内の人たちに改めてアピールし直すというのも、いいタイミングなのではないか。仕事柄、茨城へ転動してきた人と接する機会が多いが、たいいてい人は銚田のメロンが日本一だと知って驚き、実際食べてみてさらに驚くというパターンだ。この人たちは必ずと言っていいほど、家族や前任地へメロンを贈っている。</li> </ul>	
		④事業実施を中止すべきである	0		
無回答	0	無回答	0		
事業名	鹿行広域DMOプロジェクト				

## 令和2年度 第1回 銚田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員による地方創生推進交付金事業の評価結果【委員19名全員評価】

事業の概要		事業の評価		実績値を踏まえた事業の今後について	
評価	評価に対する意見・理由	今後の方針	今後の方針を選んだ理由	評価	理由
<p>FIFAクラブワールドカップ2016で準優勝した鹿島アントラーズと連携した「スポーツ合宿」を柱としたスポーツツーリズムブランドや、農業が盛んな当地域の強みを活かしたグリーンツーリズムブランドを創出するため、鹿行地区版DMOを設立し、国内だけでなくインバウンド向けスポーツ合宿商品、鹿島神宮や水郷特有の観光資源を活用したインバウンド向けフォトウェディング商品及び豊富な農産物を活用した農業体験商品等を造成する。特に、合宿商品では今後増加が見込まれるムスリムに対応するものなどを含め、スポーツ施設や合宿所の増加を図り、ムスリム圏において「海外合宿は日本・鹿行へ」と言われるようプロモーションを推進していく。そのためには、国内外の地勢、政治、経済、旅行先傾向、嗜好等に精通する旅行業務取扱管理者及びマーケティング担当者が、造成した商品を国内のみならず、ムスリム圏をはじめとする海外市場に展開する。その結果、外貨(地域外からのお金)を稼ぐ仕組みが作られるとともに、新たな雇用の創出による地域の活性化が図られる。</p> <p>また、全国に先駆けた観光地域づくりの取組としては、前述のムスリム対応合宿所の増加のほか、国内で利用者が1千万人を超えるスマホアプリ事業者と連携し、DMO実施事業に対する予約体制を構築するとともに、域内市民の統一コミュニケーションツールの作成準備をしている。</p> <p>また、地域商社の要素として、地域資源を活用した土産物や特産品を開発し、マーケティングの手法を駆使して新規開拓を行い、商品の販売を促進していく。</p>					
①取組事業がKPI達成に有効であった	<p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツを通じて他国との親睦を深める事はこれからの社会においては必要な事である。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止の影響での中止が多くあるので今年には仕方ない。</li> <li>・銚田市はもっとPRをすべきである。そのために宿泊施設の充実と運動施設の充実が必要。</li> <li>・他市との連携がポイント。</li> <li>・アントラーズの知名度は世界的にも高い。もっと活用したい。</li> <li>・銚田市民へのPRを具体的にやっていきたい。</li> <li>・メロンオーナー制度を募り、定植などを体験してもらい、あとはリモート操作でいつでも圃場を見られるようにし、最後に収穫体験ツアーに取り組み。</li> <li>・スポーツ面でいうとサッカーとして、ある程度、鹿嶋市が事業の中心となるのは致し方ないと思いますが、それ以外で鹿行広域を対象として事業を展開して頂けるといいと思います。その点で、本市としてのメリットは少なかつたかと感じます。</li> <li>・実績は伴っていないが、可能性はまだまるのではと考える。</li> <li>・鹿島アントラーズが名実共に優良なクラブチームであるように、ホームタウン各市が取組み、支援を充実させていく枠組みを維持するために必要である。</li> <li>・一口に鹿行と言っても広い。サッカーならば鹿嶋市や神栖市をイメージしてしまいます。スポーツツーリズムはまさに鹿行全域で行える事業だと思う。農業研修や農泊が出来る農家、クラインガルテンみたいな施設が出来ると、首都圏から銚田市を訪れる人も増えると思う。</li> <li>・令和元年度の活動としては、いろいろな試みを行っており、これからの目標達成に向けての活動が出来ていると思います。</li> </ul>	<p>①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させるべきである(事業拡大)</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策をしっかりとやっとうえで事業拡大へ。</li> <li>・《旧小学校利活用の提案》近年、読書離れが目立ちます。特に大学生においては約3割以上が1年間に1冊の本も読まない現実があります。もっと本に興味を持つべきです。小説家の方々は自分の蔵書を保管するのに四苦八苦しています。本を保管するため家を建てる人までいて、本の管理に苦労しています。そこで、旧小学校を図書館代わりにして、教室ごと、例えば伊集院静教室、林真理子教室とか分けます。銚田市はその教室のツアーを開催したり、ファンクラブ開催ツアーを組んで、銚田市活性化につなげるとよいと思います。</li> </ul>	
②取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった	<p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業に対してのPR不足があったのではないかと。事業の内容が理解できていないと思う。</li> <li>・知名度不足が否めない。</li> <li>・5市共通で3つのツーリズム事業を展開するが、地域間・自治体間の連帯が図られていたのか、意見交換が必要なのではとされます。</li> <li>・KPIにおいても、4項目ともに低い達成度であり、地域観光資源をもう一度見直し、地域一体となり一元的な情報発信、プロモーションが必要であると思います。</li> <li>・数値がすべて未達である。コロナ禍の影響もあり、達成はかなり厳しいのでは。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、予定されていた合宿、ツアー等の半数以上がキャンセル、中止となっている。集客を軸に置いた事業にとっては、開催できないことには話にならない。特にインバウンド向けの賞品については、全く打つ手がないといったところか。</li> <li>・宿泊地が、どうしても鹿嶋市、潮来市付近に集中している。銚田市内の施設は47件中3件にとどまっている。(しかもキャンセル、中止になっている。)</li> <li>・外的要因(新型コロナ)が大きいにせよ、KPI達成に有効であったとは言いがたい。</li> <li>・国外や県外から観光客やスポーツ合宿で集客を行うには、宿泊施設や運動施設の充実を行う必要があると思う。</li> <li>・内容で言うと、いろいろな事業をしたが、目標値が高すぎると思う。合宿1,000人、外国人200~300人程度ではないか。</li> <li>・スポーツでは実際なかなか数字を上げるのはむずかしいかなと思う。</li> </ul>	<p>②特に見直しの必要がなく今後も事業を継続すべきである(事業継続)</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、外国とのつながりはできていないが、今後、銚田の農業を活用したグリーンツーリズムは推進したい。</li> <li>・スポーツ合宿、イベントへの参加は今後とも増やしていきたい。</li> <li>・グリーンツーリズム(中国農業研修ツアー)の事業をベトナムなどとも拡大していきたい。</li> <li>・茨城空港、高速道路、鹿島臨海鉄道の活用とPRにより観光客の呼び込みを図りたい。</li> <li>・銚田市民によるアントラーズ試合観戦を多く行い、盛上げていきたい。</li> <li>・銚田の立地を活かすには本取組み自体は可能性があると思うが、実績が伴ってこない。スポーツ合宿について、学生や社会人を含めるなど、対象者を広げてはどうか。(都内の大学に通っていた際、サッカー合宿で茨城は候補にあがりやすかったです。海などのレジャーも加えてPRしてはどうか。)</li> <li>・スポーツ合宿等参加人数がこれからどう伸びていくのか期待します。</li> <li>・継続して時間がかかる事業といえると思う。鹿行地区に鹿島アントラーズがあるので、大事にしたいと思える。</li> </ul>	
無回答	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿行5市による事業なので仕方ないが、銚田市として取り組む内容(グリーンツーリズム)の予算配分が低すぎると思う。</li> <li>・コロナの影響で年度末の見込み人数が減少したのかもしれませんが、②合宿参加者数、③合宿を目的とした訪日外国人数の達成度が低いと思います。</li> </ul>	<p>③事業内容の見直し(改善)を行うべきである</p>	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の理解を図るために今以上のPRをしなければならぬと思う。</li> <li>・コロナの影響は否めないが、銚田の参加する必要性があるのか疑問だ。「アントラーズ」が入ると銚田のイメージはなく、鹿嶋のイメージが前面に出てしまう。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響を加味し、3つのツーリズム事業の内容見直しは必要となってくると思います。(特にインバウンド向け事業は回復がいつ頃になるか見通しが立たない。)</li> <li>・銚田には恩恵が少ない事業である。</li> <li>・そもそもDMOが「観光地域づくり」を目的としているので、先が見通せない現在の状況は、たいへん厳しいものがある。こうした状況の中で、今後は工夫しながらの事業推進になるかと思うが、実際に現地に集客しなくても鹿行地域の観光資源をPR・活用し地域の活性化、収入増が図れるものと考えていかなければならない。</li> <li>・サーフィン、サッカー、ゴルフ等で鹿行を訪れた人が合宿できるような施設・設備の充実。鹿行地域の農畜産物・水産物を使った食の充実等、さらに工夫・改善をして欲しい。</li> <li>・銚田市としては別の事業内容を検討してみてもどうか。日本で一番野菜をつくるまちなのだから。</li> <li>・これまで満足のいく実績が上がらないことに加え、新型コロナ禍により、インバウンド等を含め、戦略の立て直しを早急に検討すべきである。</li> <li>・新しい生活様式へ移行した中で、目標達成のための手法を再検討すべきだと思います。</li> <li>・「withコロナ」の現状ではインバウンドを前提にしたDMOの推進や首都圏などから人を呼び込むことはなかなか難しいと思う。スポーツツーリズムにおいては、県内の小中学生のサッカーに絞ってもいいのではないかと。海外や首都圏には数年後、改めて目を向けてもいいと思う。</li> <li>・現状の新型コロナウイルスの影響を考えると事業の見直しは必要だと思えます。インバウンド需要が見込めないと思うので、国内の需要開発に注力すべきだと思います。</li> </ul>	
		④事業実施を中止すべきである	0		
		無回答	0		

## 令和2年度 第1回 銚田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員による地方創生推進交付金事業の評価結果【委員19名全員評価】

事業名		つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト			
事業の概要		<p>【茨城県】</p> <p>(1)「関係人口」の創出・深化・・・ローカル志向を持つ東京圏の人材を、地域や地域住民との多様な関わりを持ち地域づくりに貢献する「関係人口」として創出するとともに、多様な関わりの機会の受け皿となる地域住民や企業等を県全体で見える化する。</p> <p>(2) 持続的に「しごと」が生まれる仕組みの構築・・・「関係人口」が本県地域と関わりながら、地域の活性化や地域課題の解決に取り組むことにより、地域で携わる「しごと」が創出される仕組みを構築する。なお、特に人口減少が進んでいる県北地域においては、クリエイティブ人材に対するコミュニティの育成から「しごと」のマッチングまでを一体的に支援する。</p> <p>上記の取組を持続可能なものとしていくため、民間の地域コーディネーター等を介した「ひと」と「ひと」、「ひと」と「しごと」のつながりが創出される仕組みを構築(中間支援プラットフォームの構築)</p> <p>【連携市町】</p> <p>県や中間支援プラットフォームによる東京圏から「関係人口」を呼び込む取組を推進するにあたり、その受け皿となる地域の住民や企業等、地域資源等の掘り起こし発掘や見える化に取り組むとともに、「関係人口」に対して地域と多様に関わる機会を提供する。また、市独自の創業支援施策や中間支援プラットフォームの事業と連携し、「関係人口」が本県内で「しごと」を創出し、定着することを支援する。</p>			
事業の評価		実績値を踏まえた事業の今後について			
評価	評価に対する意見・理由	今後の方針	今後の方針を選んだ理由		
①取組事業がKPI達成に有効であった	14	<p>①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させるべきである(事業拡大)</p>	4	<p>・農業後継者やこれからの担う若者(移住者)に対し、銚田市の現在、未来を周知し、希望を与える事は重要である。県全体の事業のようだが、銚田市の農業に特化した事業拡大を望む。</p> <p>・婚活交流により、一組でも多くのカップル誕生を願う。</p> <p>・移住・定住を促進していくには銚田は家賃相場が高いので補助等の支援策があった方が良い。</p> <p>・銚田IC～潮来ICがつながる事によりアクセスが良くなるので、工場誘致を進めて雇用創生を行ってほしい。</p> <p>・現状行っている事業はコロナで中止のものもあるが引き続き継続して欲しい。</p> <p>・事業拡大を応援します。人口増にも良い。空き家を格安で提供するなど検討してはどうか。</p>	
			12	<p>・事業を通して茨城のイメージアップを図るため。</p> <p>・PRの必要性。SNS企画・発信、テレビ放映などの活用。</p> <p>・茨城空港、高速道路と立地的には最高だと思います。企業へのPRをさらに積極的に進めてほしい。</p> <p>・農業移住者増加のため、土地や住居の提供などの施策ができればよいと思います。その際、県との連携も大きなポイントだと思います。</p> <p>・サーフスポットを観光の目玉にすることや、北浦、酒沼の資源の活用も有効だと思います。</p> <p>・アメリカの投資家ジムロジャースはこれから投資する産業は農業だと断言しています。それだけ魅力ある産業です。具体的には、銚田農高を中心に鯉淵学園等と連携し、素人からできる実践農業を行い、次に職業として成り立つ農業、さらには「農業人」として移住するシステムづくりを構築するとよいと思います。</p> <p>・姉妹都市があれば、連携した「農コン」実施する等、色々なアイデアを出しながら事業を活性化して欲しい。</p> <p>・継続して行っていくことが効果を出すことにつながると考えるため、まずは続けていくことを期待します。</p> <p>・コロナのため中止となったイベントもあるため、事業継続を試みての結果がどうか。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止になった事業を次年度も継続し、茨城県の良さをPRし、ひと・しごとを増やして欲しい。</p> <p>・コロナの影響で交流事業が中止になってしまったのは残念ですが、新しい生活様式に合わせた形の事業を引き続き行ってほしいと思います。</p> <p>・ある程度、事業を継続した上で、成果が見られなければ改善が必要であると思われる。</p> <p>・高大官民連携事業は大切な取り組みだと思う。今の時期、企業誘致・視察事業は難しいが、高大学生プロモーション事業は地元中心でも出来る事業なので、ぜひ改めて取り組んで欲しい。</p> <p>・事業の継続を希望するが、新型コロナウイルスの感染が拡大するまでの継続は、かなり厳しいと思う。少し趣旨が変わるが、銚田市民一人一人に地域資源を再認識してもらいたい時期だとも思う。銚田市の歴史や文化を市民が再確認してから、外の人たちとの関係を築いても遅くはないような気がします。</p>	
②取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった	5	<p>②特に見直しの必要がなく今後も事業を継続すべきである(事業継続)</p>	3	<p>・東京圏から「関係人口」を呼び込む為には、近隣の市町とは異なる方向で打ち出さないと目につくことがないと思う。</p> <p>・市内で農業以外の「しごと」を創出すべきではないか。</p> <p>・地域で携わる「しごと」の創出や地場産業の新たな担い手を見出すことも大事ではあるが、この状況下で改めて「地方での生活(暮らし)」やテレワークが注目されているので、都会の仕事(会社勤務)はそのままに地方に定住してもらうという視点も加えてはどうか。例えば、担い手の確保も大事があるが、農家へ嫁いでも農業に従事するのではなく、従来の都会での仕事を継続して存在勤務し、地方(家庭)生活との両立を図るなど、withコロナ、afterコロナにおける、別視点で見ている。そのための環境整備を事業として取組む。</p> <p>・新型コロナ禍から新しい生活様式、更に新しい日本の形(カタチ)、価値観が創り出される中で、当市の新しい農村地域の在り方を具体的にわかり易く、ビジョンを示す必要がある。</p>	
			0	<p>④事業実施を中止すべきである</p>	
無回答	0	無回答	0		